

# 鷗朋会 ニュースレター

【第7号】2014.10

## 海洋システム工学科移転のお知らせ

鷗朋編集委員長 三宅 成司郎 (大学 30 期)

海洋システム工学科は現在 A6 棟を本拠として研究や学問に励んでおりますが、平成 27 年 2 月～3 月頃に移転致します。本学舎は、工学部 6 号館として昭和 28 年(1953 年)3 月に竣工されました。この昭和 28 年は、新制大学として第一回目の卒業式が行われた年でもあります。同学舎は、それ以来 61 年間の長きにわたり、船舶工学科・海洋システム工学科を巣立って世に出ていく同窓生を見守ってきてくれました。海洋システム工学科の新学舎は、下記の中百舌鳥キャンパスマップ中に青丸で示した場所(B4 棟の 1 階,2 階)です。なお、この A6 棟および棟内にある回流水槽や構造実験装置などの大型設備はそのまゝの形で残ります。また、A6 棟の正面玄関前にあるプロペラと錨のモニュメントや裏の曳航水槽も残ります。A6 棟は建物内部を全面改装(耐震補強)した後、一部には現代システム科学域が入る予定だと聞いております。

ずいぶんと昔のことですが、航空工学科の学舎(現 A9 棟、かつての工学部 5 号館)の 4 階に船舶工学科の製図室がありました。その航空工学科の学舎は、耐震強度不足によって建物の取り壊しが始まっております。取り壊し用の防音シートが掛けられた建物の横を通るときに、一抹の寂しさを覚えます。

海洋システム工学科の移転に先立ち、今度のホームカミングデー(2014 年 11 月 2 日に開催)において現学舎の見学会を行います。その概要は、次ページをご覧ください。



大学の今と昔の写真を並べてみました。



現在の中百舌鳥門



32年前に筆者が撮影した中百舌鳥門



現在のA6棟



工学部6号館(32年前に撮影)



現在の白鷺門



府大池・曳航水槽・工学部6号館

大学の各所は様々に変化を遂げていますが、こうして比較してみるとA6棟(工学部6号館)は昔と何も変わっていません。

### ホームカミングデー 海洋システム工学分野 A6 棟付近施設見学会のご案内

11月2日(日)のホームカミングデーに合わせて、A6棟付近施設の見学会を開催致します。個人でも、同級生ご一緒でもお気軽にお越し下さい。各施設へご案内し、現状を説明致します。また、当日は会議室を16時半まで休憩室として開放しておりますので、待ち合わせ等の場所としてご自由にお使いください。

見学実施時間： 14:30～16:30

受付： 14:20～16:00

受付場所： 海洋システムセミナー室 (A6棟2階)

見学場所： 曳航水槽、回流水槽、共同実験室、構造実験室、自習室など

ツアー時間： 人数が集まり次第案内します。団体の場合は適宜案内します。(30～50分)

その他： 2階会議室ではスライドを上映しています、ご自由にご覧ください。



## ■ 海洋システム工学科の組織・研究体制について ■

編集委員長 三宅 成司郎 (大学 30 期)

現在の海洋システム工学科は 11 研究室・1 寄付講座にて構成され、下記の 5 分野に対して種々の研究を行っています。かつての研究室には分野名（船舶設計・流体・構造等）がつけられていましたが、最近教授・准教授名がついた研究室になっています。次号の賜朋からは、大学からの情報発信の一環として各研究室を順次とりあげ、最新の研究内容を紹介する「研究室紹介」を行いたいと思っています。

<b>海洋輸送工学</b> ：船舶など海上物流手段の高度化を担う	<b>海洋環境工学</b> ：海洋環境の保全や修復を目指す
<b>海洋資源工学</b> ： 海洋資源や自然エネルギーの持続的利用を考える	<b>海洋空間利用工学</b> ： 海上空港など海洋空間の新しい利用を考える
<b>海洋システム計画学</b> ：上記を統合して、海洋を利用する人間活動のあり方を追求する	

池田研究室	船舶から海洋開発まで幅広いテーマをターゲットに、新船型の開発や船舶性能の分析、海上輸送の経済性分析、損傷船の安全性評価などを行っています。
馬場研究室	外洋から内湾まで海洋の生物学的な環境をマリンエコシステムとして捉え、これに関する現象の解明から工学的な環境創造までを目的とした研究を行っています。大気の流動や変動によって引き起こされる海洋の物理過程を中心に、これが生物学的な環境に与える影響について、水槽実験とコンピュータを用いた計算によって現象を再現し、研究を進めています。
深沢研究室	波浪荷重や船体応答の非線形性、特にスラミングによるホイッピング振動を考慮した荒天時の船舶の動的構造応答解析など、構造物の挙動を流体外力との相互干渉という観点から研究しています。その他、光ファイバーを利用した圧力計の開発も行っています。
山崎研究室	世界トップの潜在的資源量を有する海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト、メタンハイドレート等の深海底資源の開発を実現するための研究を行っています。これらの研究を海洋新産業の創生・振興に繋げるためには、環境調和型の開発手法や、競争力を有する特徴的な開発技術が必要です。また、海洋生態系への影響を事前に予測・評価することや経済性も重要です。これらを総合した未来を開拓する研究に力を入れています。
新井研究室	海域環境モニタリングや海洋資源開発に関する先端的センシング技術の開発および計測信号から有意な情報を抽出する情報処理アルゴリズムの開発を行っています。
有馬研究室	安全、安心で快適な海上交通機関の実現を目指してヒューマン・ファクター（人間工学）に関する研究を行っています。また、複数機の自律型水中グライダーによる海洋生態系の長期間、広範囲に亘るモニタリングを目的とした海中ロボット工学の研究にも取り組んでいます。
片山研究室	排水量型船舶や海洋構造物の波浪中復原性および安全運行に関する研究、多胴型や滑走型などの特殊船型を含む高速船の自動危険回避システムなどの高機能・高知能化に関する研究、各種性能評価のための水槽試験法の開発に取り組んでいます。
柴原研究室	私たちの研究室では、船舶・海洋分野をはじめとする幅広い分野における設計・製造支援のための解析ツールの開発、およびそれらを各種製造分野に応用することを目標に研究を進めております。製造プロセスの中でも、特に、溶接や切断といった熱加工のシミュレーション技術の開発を中心に取り組んでいます。
坪郷研究室	実験が困難な大型船舶・大型浮体式海上空港などのシミュレーションに基づいた設計について研究を行っています。メガフロートは、埋め立てずに広大な面積がえられるため海上空港などへの利用が考えられており、波浪応答、揺れ、強度、係留など幅広い分野で研究を進める必要があります。
中谷研究室	持続可能な社会と海洋環境とのより良い関係の構築を目指し、それに関わる工学技術の開発を行っています。具体的には、海洋環境モニタリング手法、海洋環境シミュレーション技術、持続可能性評価手法、海洋環境利用技術などです。
二瓶研究室	海洋構造物・船舶を主テーマの研究室ですが、海洋構造物では洋上での風力発電、波浪発電、潮流発電に関する研究を集中的に行っています。安全で経済的な海の再生可能エネルギーの利用には未だ課題が多く、実海域試験から大型水槽試験、さらに数値計算も駆使し研究開発を行っています。
今治造船 次世代船舶 技術寄付講座	海運分野で求められているCO <sub>2</sub> 排出量抑制、沿岸域における環境汚染ガス排出削減や騒音被害をゼロにすることを目的とした次世代の船舶について、そのコンセプト設計やフィージビリティ・スタディなどを行っています。

なお、池田研究室は池田良穂教授の定年退官に伴い平成 27 年 3 月 31 日にて終了致します。また、大塚耕司教授の研究室が、平成 26 年度の後期に現代システム科学域に立ち上がりました。

# 大阪府立大学のホームカミングデーへ行こう！



日時： 2014年11月2日(日) 10時～16時(予定)

場所： 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス (10/31～11/2の秋の大学祭「白鷺祭」の3日目と同時開催)

内容： 10～12時頃 学長あいさつ、記念講演 12～14時ころ 交流レセプション

14：30～16：30 海洋システム工学分野A6棟付近施設見学会(詳細は前頁にて)

## 原稿募集

工学部6号館・A6棟に関する思い出話を募集しています！

テーマ：「工学部6号館・A6棟に関する思い出」(タイトルは自由にお付け下さい)

在学当時(現学生は在学中)の学舎にまつわる面白話や種々のエピソードをお教えてください。

その他近況報告、同級生との同窓会開催顛末、地元の紹介、技術的なレポートなど自由なテーマも募集しています。

分量：2000字程度を標準としますが、柔軟に対応いたします。

- ・原稿は、郵便、ファックス、電子メールなどでどんな方法でお送りいただいても結構です。
- ・写真やイラストつきの原稿も大歓迎です。

宛先： 鷗朋会 事務局

〒599-8531 堺市中区学園町1-1 大阪府立大学大学院工学研究科 海洋システム工学分野気付

TEL/FAX: 072-254-7461 E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

## 会費納入のお願い

会員の皆様方には大変お手数をおかけいたしますが、平成26年度分の会費(2,000円)を同封の振込用紙にてお振込みいただきますようお願い申し上げます。請求書を同封しておりますので、請求金額をご確認下さい。

本会は皆様方からの会費のみで運営しております。なにとぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 「会誌11号」について

2016年4月発行を目標に、同窓生名簿を含む「会誌11号」の編集を遅からずスタート致します。

会員各位には、種々願ひすることがあるかと思いますが、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 平成25年度会計報告書

収入の部		支出の部	
前期繰越	402,933	振込手数料	41,240
		通信費	191,565
		役務費	627,200
同窓会会費	1,115,000	事務費	84,058
理事会会費	15,000	印刷費	360,116
寄付	110,000	会議費	43,516
利息	87	備品費	19,530
HP拡充費	30,000	雑費	0
(工学部同窓会より)		慶弔費	12,810
		HP学生アルバイト費	30,000
小計	1,270,087	小計	1,410,035
		次期繰越	262,985
合計	1,673,020	合計	1,673,020

### 会計監査

大阪府立大学工学部 鷗朋会殿

監事 杉山和雄 吉久英昭

平成25年度の同窓会会計につきまして、監査の結果、適正に管理運営されていることを確認いたしましたので報告いたします。

今回は会計報告のみですが、正式な理事会議事録につきましては、「鷗朋23号」で掲載いたします。

## 鷗朋会ニューズレター 第7号

発行日/2014年10月1日

本ニューズレターの発行は、鷗朋会第58回理事会にて議論・承認された事項です。

### 鷗朋会(けきほうかい)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科 海洋システム工学分野気付

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~web01/ob/index.html>

E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

TEL/FAX : 072-254-7461